

教育費はどう準備するの？

教育費は「18歳まで」と「18歳から」で考えます。高校を卒業する18歳までの費用は月々の生活費から捻出し、18歳からの大学以降の費用は赤ちゃんの時からコツコツ積み立てておきましょう。

先取り貯蓄で確実にコツコツ貯めよう！

積立定期や一般財形貯蓄をうまく利用しましょう。毎月決まった額を貯蓄できるうえ、簡単に引き出すことができないので確実に貯められます。無理のない金額で行うことがポイントです。

組合員さんの体験談

いただいたお祝い金を、生活費や家族旅行に使っていました。あの時もっとライフプランを考えていたら進学時に助かったのに…。
(LPAの会 Tさん)



かたやま よしこ
LPAの会 片山 淑子さん

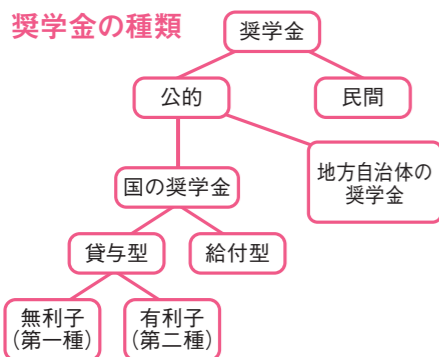
出産祝いやお年玉、児童手当は子ども名義の別通帳へ。貯めておけば200万円を超える金額になりますよ。

学資保険(子ども保険)は加入前にチェックしよう！

- * 元本割れに注意。支払ったお金より、受け取れるお金が多いか確認しましょう。
- * 保険によっては半年、年払いで保険料が安くなるものがあります。
- * 満期時期に注意。高校3年生の秋頃までに用意しましょう。特に、早生まれのお子さんは気をつけてください。
- * 契約者には「家計を支えている人」を。途中で契約者に万が一のことがあった場合、それ以降の保険料の支払いが免除されることもあります。

奨学金について知ろう

現在、日本の大学生の半数以上が何らかの奨学金を得ているといわれます。奨学金は進学に必要な学費や生活費を支援してくれる制度で、借入れは学生の学力や家計の状態によって審査されます。



いくら借りられるの？

- 無利子(第一種)**
 - 特に優れた学生および生徒で経済的理由により著しく就学困難な人に貸与。
 - 進学先や通学環境により貸与額が異なります。
【一例】国・公立・私立/自宅・自宅外:月額2万円(※平成30年4月1日から)~6万4千円。
- 有利子(第二種)**
 - 第一種奨学金よりゆるやかな基準によって選考された人に貸与。(世帯年収、成績基準など)
 - 貸与額は進学先や進学状況に関わらず月額3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から借りることができます。
* 利子を返す必要があります。

返済は？

短大や専門学校で2年間借りた場合	最大で月1万6千円ほどの返済
第二種奨学金の月額10万円を4年間借りた場合	月々の返済額は2万円超
第一種と第二種の併用貸与、医学部や薬学部で増額した場合	月々の返済額は4万円台になる可能性があります

完済は20年前後

出典:奨学金見極めガイド

組合員さんの体験談
子どもが奨学金を返済中です。第一種を借りて総額243万円。毎月13,500円ずつを180回…完済は38歳の予定です。(LPAの会 Sさん)

LPAの会ってなあに？



LPAはライフプランアドバイザーの略で、社会保障や保険、税金、相続、金融など、暮らしのお金について勉強した組合員が、組合員同士の学び合いを目的に活動しています。

LPA募集中!
詳しくはコープぎふ共済部まで
TEL:058-370-6713

LPAの会の学習会を開催しました！

教育にかけるお金を見直そうと思いました。奨学金の種類もとても勉強になり、家族や友達にも教えてあげたいです。
(羽島市 めたぼうさばんださん)



気にはなっていたけど、今までしっかり考える機会がありませんでした。いつまでに、どのくらい貯めておけばいいのか、具体的な金額を知ることができてよかったです。(垂井町 井澤さん)

いろいろな小さな出費をいかに貯金にまわすか…先取りで貯める!を実践しなきゃと思います。(大垣市 にゃごすけさん)

1年間にかかる教育費は？

教育費の準備をするために、まずどのくらいかかるのかを見てみましょう。下の表は幼稚園から高等学校までの年間教育費です。入学・進学の時期は決まっています。その時期にかかる金額を把握し、ライフプランをたてましょう。

単位:円

区分	幼稚園		小学校		中学校		高等学校(全日制)		
	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
学習費総額(年間)	222,264	498,008	321,708	1,535,789	481,841	1,338,623	409,979	995,295	
内訳	学校教育費(授業料・学用品・通学費など)	119,175	319,619	59,228	885,639	128,964	1,022,397	242,692	740,144
	学校給食費	19,382	36,836	43,176	46,089	38,422	4,154
	学校外活動費(学習塾費や習い事など)	83,707	141,553	219,304	604,061	314,455	312,072	167,287	255,151

出典:文部科学省子供の学習費調査平成26年度より

15年間の総額

すべて公立	527.2万円	幼稚園だけ私立	609.9万円
幼稚園と高等学校が私立	785.5万円	高等学校だけ私立	702.8万円

*幼稚園は3年で計算

かかる教育費とかける教育費の視点を持とう

上の表にある「学校教育費」は学校に一律で支払うお金なので、必ずかかる費用です。これに対して「学校外活動費」は、学習塾や習い事など家庭でやる・やらないを選択できるので、かける費用となります。教育費の負担が大きくなる場合は、かける費用を見直しましょう。

塾や習い事はお子さんも交えて家族で話し合しましょう。「みんながやっているから」という理由だけで決めるのは注意が必要です。



LPAの会
井貝 順子さん

大学のおかね

大学の学費は、公立・私立の違いだけでなく専攻する学科によっても差があります。1年または半年分の学費を一括で前納するので、まとまったお金が必要になることも忘れてはいけません。このほかに、入学前には受験費用や併願校の入学料、入学後は、通学費や下宿の場合は家賃など生活費が必要になります。

大学の授業料(昼間部) 単位:万円

	初年度	2年目以降	総額	
国立	81.7	53.5	242.5	
私立	文系	114.3	90.5	385.8
	理系	150.7	124.8	525.1
	医歯系	478.9	377.7	2367.4
	その他	145.7	118.9	502.4
平均	130.8	105.2	451.9	

自宅外通学の仕送り額
全国平均は月約7万円
といわれています。

*全国大学生協連「51回学生の消費生活に関する実態調査」より
出典:文部科学省「平成27年度 私立大学入学者に係る初年度納付金平均額調査結果」、国立大学は平成28年度標準額

組合員さんの体験談

1浪後の受験。「行かない」と言う大学まで無理矢理受けさせました。今思えばもったいない。平常心を忘れずに。(LPAの会 1さん)

巻頭特集

子どもが小さいうちから計画的に備えるには、「将来、奨学金を借りた場合どうなるの?」など、悩みや不安が多い教育費。今回はLPAの会のみなさんに、子どもの教育費で大切にしたいポイントや教育資金の準備について教えていただきました。子どもの成長を楽しみながら計画的に備えたいですね。

子どもの教育費っていくらかかる?



母より